

ベルギー・イーペル Breemeersch Dille

このレターの中で、青少年国際平和未来会議2019広島で私が学んだプロセスについて述べたいと思います。また、私たちの活動の成果と新しいアイデアについても説明します。

私の街、ベルギーのイーペルの青少年大使として、私はIYCPF2019に参加するために広島に行きました。私は、世界各国から会議に参加した42名の青少年の1人でした。そこで、大きな文化の違いを体験しました。私たち若者は、学校システム、政治的関心や知識などのいくつかのテーマについて異なる興味や意見を持っていることに気づきました。しかし、世界平和、環境、核兵器などについては、意見は同じでした。私たちの相違点や類似点を見つけるのは、とても面白いと感じました。このようなトピックに対応方法はひとつではないことを、これまで以上に学びました。世界平和の問題に答えたり、解決したりするのは、私たちには、とても難しいものでした。この週を通して、私はイニシアティブをとり、世界の問題について何かしたいという気持ちでした。それは、その問題を解決するだけでなく、人々の意識を高めるような活動をオーガナイズする事だったのかもしれませんが。

私はこのようなイベントが、どのようにオーガナイズされているのかを学ぶことができました。学んだことを、今後、私の活動に役立てることが出来ます。全員が、自分の故郷の状況や経験について語る時間が十分にあったのが良かったと思います。これにより、プログラム全体に、付加価値をつけてくれ、みんなが心を開くことができました。

私にとって、この経験は非常に興味深く、将来に役立つものとなりました。私の仕事につながる興味深いトピックを与えてくれました。同じ問題意識を持ち、興味深く、様々な視点を持つ多くの人たちと一緒に時間を過ごせ、特別な気持ちになりました。このプロジェクトは、私の視野をいろいろな意味で大きく広げてくれました。アジアやロシアの人に会ったことがなかったので、頑張って向き合わなければなりません。ある事が当たり前で、普通のことだと思ふ人もいれば、他の人にとっては当たり前でもなく、奇妙なことなのです。でも、それは非常に興味深いことでした。

様々な文化的な活動をしたり、小グループに分かれてグループ・セッションをしたり、他の人の話を聞く中で、このような平和会議の一環として、協力し合い、意見する事がいかに重要か気づきました。

私たち若者はみんな、私たち、私たちの子供、そして孫の未来をとっても心配しているという事がわかりました。将来のために戦うのは若者だというのは普通のことではありませんが、一方で、物事はどうあるべきかを示してくれた科学者、世界の指導者たちもいます。私たちの仕事や責任ではないのですが、世界の現状が、私たちの唯一の選択肢になろうとしています。そこで、私は故郷に帰ってから、私が集めてきた情報で何かしたいと思っています。会議で私たちがいろいろ考えた活動の中で、例えばソーシャル・メディア上でオンライン・グループを作るというものがありました。そこで、世界平和のため、人々に正しい情報を発信し、知識を交換し、効果的な活動を始めるのです。

イーペルには、世界平和がいかに重要かを人々に伝える活動が多くあります。将来的には、私たちの街で、より多くの参加者を集め、より大きなネットワークにすることが課題です。ベルギーにおける主要な平和都市として、更に多くの都市も巻き込むような活動の立ち上げをすべきだと私は思っています。

また、私たちは、様々な意味で「私たちの世界を救う」ことについての講演も開催できるかと思っています。例えば、私が日本で経験したこと、世界各地から来た人たちと一緒に、どのような活動をしたかについて話したいと思います。自分の街で、同じ考えを持った若者同士、このような会合を開き、自分たちの街/国/世界をより良い場所にしてもらえよう、政治家に働きかけるこ

とができれば、どんなに素晴らしいでしょう。私は、自分の街/国の平和大使になり、会議の開催を手伝ってみたいです。これが、私の将来の目標です。私の街では、私たちは大きな平和の旗を作りました。この旗は、9月21日に公開されました。平和を求める印として、私たちはこの旗を大切にします!

このプログラムに私を参加させてくださった皆さんに感謝いたします。決して忘れることのない、一生に一度の経験となりました。